

K002

- T: はい、はじめまして。
- I: はじめまして。
- T: えー, 【T】と申します。
- I: 【I】と申します。
よろしくお願ひしますー。
- T: 【Y】さんですね、はい。あのー【Y】さんはどちらの出身ですか？
- I: あ、中国の【地名】の出身です。
- T: あ、【地名】ですか。
- I: はい。
- T: あのー, 【地名】は、と、とても大きな町なんですけども〈はい〉, 【地名】のどちらのー…
- I: あっ、【地名】にいらしたことがありますか。
- T: ええ、言ったことはないんですが〈ええ、ええ、ええ〉, うん、興味があるので〈あ、はい〉。
こう、空港とか〈はい〉綺麗ですし。
- I: あのー, 【地名】の町の〈うん〉, そうですね、西のほう〈ふーん〉に、あの〈うん〉自宅がありまして、
〈ふんー〉はい。
- T: あっ、【地名】の西のほう〈はい〉ですね。
はい、えーと日本にいらっしやったのはー, い…
- I: あのー, 12年前, 1996年…
- T: 96年ですか〈はい〉。
あのー, いらっしやった目的とか、あ、あつたんですか？。
- I: あのー, まあこっちにすむようになってー〈はあー〉, はい。
- T: あ、住むようになった…
- I: はい。
- T: あー, そーなんですか。
- I: はい, いちおう今永住して、〈ああー〉いますね。
- T: そうですね。
あのー, 何か日本語を始めるきっかけとか〈あつ〉, ございましたか？。
- I: あのー, 日本語はー, あのー, 大学ー〈ふんふん〉に入って、あの、こう、始めて、勉強、てか本科で、
あのー, 中国語で言う、日本語本科、〈ふん〉っていう〈ふん〉…
- T: それは、その、【地名】…
- I: 大学の専攻でー〈ふん〉, 日本語を取っていました。
- T: あっ、あのー, それは【地名】でー…
- I: はい。
【地名】の大学で…
- T: あっ、そうですかー。
- I: なので、あのー, 当時は一、えーと、私が入学したのは1989年〈ふーん〉でしたので〈ふんー〉, あの
ー, 日本語を使って〈ふん〉, たえばビジネスの場で、あのー役に立つ〈ふん〉, ということで、かなりは
やりましたのでー〈ふーん〉, えーと、なので、えーと、日本に留学して、った人もかなり多くてー〈ふー
ん〉, で、まあそういう影響もあつて、〈ふん〉, まあ、何か役に立つだろうって…
- T: ああー, そうですねー。
- I: ことで、日本語選んだんですけど…
- T: 最初、その、日本のどちらにいらっしやったんですか？
- I: あっ東京です〈あつ〉。
ずっと東京…
- T: あっ、ずっと東京ですか〈はい〉。
そうですね。
まあ、12年間ずっと東京に〈{笑} はい〉。
あっ、そうですね。
12年とねー, いうとねー, もうねー…
- I: 長いです {笑}

K002

T: 10年経過しておりますけどー、あのー最初にいらしたところとー〈はい〉、今とー、ずいぶん東京の印象は変わりましたか？。

I: あー、多分、変わっ、ていると、おもうんですけど〈ええ〉、あのー、汚くなってきました、ね。

T: ああーそうですかー、ふーん。

I: なんか、一番大きく印象に残って〈ふん〉いるのはー、最初に来たころはあのー、まあ最初にいつ、あ、そうですね〈ふん〉、96年来〈ふん〉たつて言ったんですけどー〈ええ、ええ〉、実は95年、4年…

T: あー、そうですか。

I: あたり、に一回来たことがあってー。

T: あっ、いらっしやったんですね、ふん。

I: 当時はすつごく綺麗〈ふーん〉、町並みが綺麗、ですし、道もすつごく綺麗ですし、…

T: そっ、東京ですよ？。

I: 東京〈ふーん〉。

あのー、ごみもぜんぜん〈はあー〉落ち〈ふーん〉てなかったり、そういう印象はあつ〈ふーん〉たんですけど、最近の新宿とかみる〈ふーん〉とごみだらけに〈ふーん〉なつてて、汚く〈ああー〉、どんどん〈ふーん〉汚くなってきたなつて感じはします。

T: あのー、生活してらして、人はどうですか？。

東京の人、何かこう、うーん。

I: ああー、冷たいとか {笑}、そういうのですか {笑}？

T: どうでしょうかね？。

最初いらした時とこう {笑}…

I: いや、あのー、えーっと、そうですね〈うん〉、そんなにこう、うーん、そうですね、あんまり人、と関わ、みん〈ふーん〉なあんまり他の〈うん〉、知らない人と関わつて…

T: あー、なるほど。

I: いないつていう感じはしました。

で、まあ特に東京の人は、冷たいとかそういう印象は、あんまり比較もできていなかったの〈ふーん〉で、あのー、…

T: ああー、そうですね。

I: そんなに、ちこち行つて〈うん、うん〉なかったの、あんまりそういう印象は特になか〈ふーん〉つた〈ふん〉んですけど。

T: でも、【地名】もね、大都市ですからねー。

うーん、で、その、【地名】と東京をー、こう、比較するとすると〈はい〉、何かこう、違う点とか、似てる点とか、ございますか？。

I: あっ、あのー、人間関係ですか〈ほおー〉、それとも他ですか〈うん〉、その、違うつて言うのは？。

T: それは、そうですねー、ま、人、そうですね。

うん、交通とかー、うん、まあ、色々、うん…

I: あっ、あーっ、そう、ハード面では〈うん〉、すつごく、まあ〈うん〉東京のほうが〈ああー〉進んでいるつていう〈うん〉ことはまず言えるとおもうんですけど〈うん〉、まあ交通機関も発達しているの〈うん、うん〉でー、まあ【地名】、【地名】はそういう面では遅れている〈うん〉んですがー〈ふーん〉、ただ、生活のその〈うん〉、コストが安い〈うん〉つていうことで〈うん〉住みやすい〈うん〉つていう点では【地名】の方が。

あのー、あたし〈うん〉から〈うん〉見れば〈うん〉、今でも【地名】のほうが住みやすいかなー〈ふーん〉、あのー、つていう面があります〈うん〉。

まあもちろん、その、東京ではそのー、なんて言うんですかね、あのー【地名】と比べたら、あのー、秩序的な街〈ふーん〉、つていう感じがしますね〈ふーん〉。

T: ふーん、すいません。

その、その、秩序的な街の、詳しくー、{笑} 教えてもらえますか？。

I: そうですね〈ふん、ふん〉。

あのー、さっきの、交通機関で〈はあー〉言うとおあれですね〈ええ、ええ〉、みんな列に並んで〈ふーん〉、乗車したり〈うん、うん〉するとか、そういう面〈ええ〉とー、あと、まあ、あの、交通ルールをきちんと守る〈うん、うん〉とか、あの向こうの人は自由奔放にもう〈ふーん〉、あのー、やっているの。

T: あー、そうすか。

I : そういう面で秩序的っていうの〈ふーん〉は、あ〈うん〉りますね〈うん〉。

そうですね〈うん〉、意識面でも〈うん、うん〉、どちらかという、ルールを守る〈うん、うん、うん〉っていうのは、こっちの人が強いんですけど、あの一、まあ、あの一、向こうの人はどちらかという〈うん〉、まあ、好き勝手って言うのは言葉が悪いん〈うん〉でけど〈うん、うん〉、あの一自分がやりやすいように〈ふーん〉、あの、まあ、周りの人がどう見ているかはもちろん〈うん〉ちょっと気にはするんです〈うん〉。

けど、一番はやはり自分がやりやすい〈ふーん〉っていう〈ふん〉とこりかな一〈ふーん〉と思います。

T : でも例えば、その、具体的にその自分がやりやすいっていうのは、こう、ちょっと〈ふん〉、や、あの一、私が一、【地名】に行ったことがないもので〈ふん〉、その、ちょっとイメージができないんですけど。

I : ああ一、えーっと {笑}、そうですね。

えーっと、例えば列に並ばな〈ふん、ふん〉かったりとか一〈ふん〉、あと道を渡る時に〈ふん〉、例えば、車がなければ一〈ふん〉、あの、赤でも〈ふん〉渡ったり〈ふん〉とか、そういう〈ふん〉、ところがあつ〈ふん〉たりして一。

後は、例えば、あの一、えー、人間関係で言うとか一〈ふん〉、あの一、例えば人に物を頼んだりとか一〈ええ、ええ〉、そういう時には一〈ふん〉、あまり、あの一、日本では〈はい〉「相手はどう考えるだろう」〈はい、うん〉、と色々、先回りして〈うん、うん、ええ、ええ〉、色々考えてから行動する〈ふん、ふん、ふん〉んですけど、こっちではどちらかという〈ふん〉、あの一、頼む人とか〈ふん〉要求する人とか〈ふん〉、そういう人が中心で〈ふん〉、まあ、とりあえずやってみる〈ふん〉。

で、相手の出方次第でまた、対応すればいい〈ふーん〉、っていうところはあって、まあ、それぞれ自分がやりやすいようにして〈ふん、ふん〉いて一〈ふん〉、あの一、ぶつかり合っ一、やって〈ふん〉いく、それで、まあ、うまくできているって感じが〈ああ一〉するんですけど一…

T : 日本人の印象が、そのぶつかり合うっていうのが結構きついな一っていう気がするんですが、〈あ一〉どうお考えですか？

I : きついですか？ {笑}。

T : ええ一、こう、ぶつかる、こう…

I : あの一〈ふん〉、あたしは〈ふん〉今どっちでも一〈ああ一〉、あの一、周り長く住んでいるので〈ええ、ええ、ええ〉、まあ〈ふん〉何とか対応する〈ええ〉、できるように〈ふん〉なっているんですけど〈ふん〉、ぶつかりあうって言うても〈ふん〉お互いにそういう一心構えでしたら〈ふーん〉、怖いことも何もないですよ？。

T : ああ一そうですか {笑}。

I : こっちがぶつ〈うん〉かって〈うん、うん〉いくんですけど〈うん〉、向こうはぶつかってくるのを〈うん〉怖がっていれば、問題なんですけど〈ああ一〉、お互いに前にぶつかっていく〈ふーん〉なら〈うん〉、サッカー〈うん〉、例えばサッカーを〈はい、ええ、ええ〉やっているような感じで、やっていったら一、別にそれはルールであり〈ああ一〉、ゲームである〈ふん〉って考えれば一〈ふーん〉、別に〈ふん〉問題ないんですよ〈ふーん〉。

たぶんそういうところですかね〈うん〉。

なので、こっちの人から見たら、ぶつかり合うっていうのは怖いかもしれないんですけど〈うん〉、むこの人から見ると、なんで先回りして色々考えてないといけないのかって〈ふーん〉、あるいは相手の、そのやってることいってる〈ええ〉ことは、ほんとにどういう意味なのか〈ふーん〉、っていうのが分からなかったりする場合がありますよね。

T : なるほどね一。

I : 先回りして考える習慣がある人と〈ふん〉ない人〈ふん〉では一、ぜんぜん、その、捉え方が違う、理解〈ふーん〉、解釈が違うっていうことがあるので一。

まあ、あの一、お互いたぶんやりやすい面とやりにくい〈ふん〉面があると思うんですけど。

T : でも結構、逆に東京を見てると一、こうえー、まあ、電車の中とかいても〈はい〉、かなり、こう、無関心とか一〈ああ一〉、その駆け込み乗車があつたとしても一〈はい〉、なんかぶつかったとしても〈はい〉、あんまり、め、見もしない {笑}。

なんか、こう一、こうさびしいとか一〈ああ一〉、孤独感を感じるんですけども一、もし、この一、【I】さんがですね、その一、東京が、活気がないと、こう、最近、言われているんですね、こう、なんか人々がこう、あんまりこう、なんていうか、お互いに無関心…

K002

- I : えっ、活気がないんですか？
- T : うん。と思うんですけど、以前からすると、〈へえー〉ええ。
活気がないって言うか、こう、共同体のこうなんて言う〈はい〉かな〈はい〉、こう、お互いが、こう、なんて言うかな、こう、えー、最低のこう、生活のマナー〈はい〉〈はい〉とか、こう、そういう助け合いとか〈はい〉、そういうのが、ちょっと、こう、ぶつからないだけに〈はい〉見えないかなーとおもうんですけども〈ああー〉、こう、さっ、遠慮しちゃうとか〈はい〉、逆に遠慮じゃなくて無関心、そういうちょっと見えるんですけども、私はですねー〈ああー〉。
うん、そう思わないですか？。
- I : そうですか。
そんなに思わないですけど、私には。
- T : あー、そうですか。
例えばですねー、こう、日本の若者って、こう〈はい〉、最近、元気がないとか〈はい〉、言ってますよね〈ええ、ええ、ええ〉。
その、こう、あの、その【I】さんがですね、例えば、学校、高校とかですね〈はい〉、その卒業して〈はい〉こう、まだ…
- I : 元気がないって言うか、向上心がないってことですか？。
- T : そうですよー。
うん、あのぶつからない。
- I : あの、上昇志向があまりないってことですか？
- T : そうですね。
そのぶつからないからかなー〈ああー〉、って思うんですけどもー、そういったその学生たちに、を、なんていうか元気を出させる〈はい〉、部分として、この【地名】のパワーだとか〈ええ〉、中国のパワーとか、そういったものを、こう伝える立場だとしたら〈はい〉、どう、その、学生に〈ああー〉、若者にですね、…
- I : 難しい〈ふん〉ですねー〈ふん〉。
目標〈ふーん〉がないっ〈うん〉て言う感じですよ〈うん、うーん〉ねー。
あの一、あの一、向こうの人の目標っていうのは、必ずしもすごく、あの、威張っていえるようなものじゃないかもしれないです〈ふーん〉ね。
お金のためとかー〈はい〉、自分の、個人の成功のためとか〈ふん〉、まあ{笑}〈ふん〉だいたいそういう目標を、しかもっていない人が…
- T : でも***しいですよ。
- I : {笑}、多いんですけども、で〈ふん〉だから大体自分がー〈ふん、ふん〉、将来お金持ちになって〈ええ〉だとかー、事業に成功して〈はい〉お金持ちになって〈ええ〉、外車に乗り回してとか〈はあー〉、大体そういう〈ふん、ふん〉目標持つてる人とか多いです〈ふん〉けど、まあ、それでも、目標は目標で〈ふん〉それに向かって、なんか、まー、がんばる〈はい〉、っていうことができるのでー〈うん〉、そういう意味では、日本の若者が元気がない〈はい〉、ってさっきおっしゃっていた〈ええ、ええ〉のは、やっぱそういう目標すらないってことですよ〈はい〉かね。
- T : そうですねー、それをこう、なんていうか、引き立てる？。
- I : 引き立てるのは〈ふーん〉難しいと思います〈ふーん〉。
あの一、なっ、なんて言うんですかね〈ふん〉、あの、自分の親の世代〈ふん、ええ〉大体親の世代を見て〈うん〉育って〈ええ〉、普通は私たちは親の世代を見て育っている〈ふん〉んですけどー、まあ、中国はああいう時期で〈ええ〉、ちょうど、こう、まあ、成長期〈はい〉にあってー〈うん〉、まあ、親たちも一生懸命〈ええ〉仕事を〈うん〉、まあ、してー〈うん〉、で、でその社会が大きく変わっていく中で〈うん〉、自分たちも何かすれば〈ふん〉、すごくチャンスが〈はい〉あちこちに〈ええ〉転がっていてー、それをつかめば一何とかできる〈ふん〉っていうところがあって〈ええ、ええ〉。
で、逆に日本の場合はすごく成長期も過ぎている〈はい〉のでー〈うん〉、その、すごく安定〈うん〉しているのでー〈うん、ええ〉、その社会が、もう、ほぼ成熟期〈はい〉に入っている〈うん〉のでー、そこでーあの一、ほんとに自分がこれさえがんばってやれば〈ふーん〉絶対成功できるとか〈うん、うん〉そういう保証がどこにもないです〈はい〉ね。
- T : そうですねー。

K002

- I : で、親たちを見ても大体〈ふん〉、ま、わ、分からない〈ふん〉。
 今の子供たち〈ふん〉、子供たちじゃなくて〈ふん〉{笑} 若者たちの〈ええ〉、親は40代後半〈はい〉、
 50代ぐらいですか。
- T : そうですねー。
- I : で、その段階の世代より若干若い世代ですか。
- T : そうですねー、そうですねー。
- I : 段階はもう定年しているんですねー。
- T : そうですねー。
- I : ちょうどちょっと若い世代なので…
- T : そうですねー。
- I : 多分、あの一、彼らが子供時代に成長期〈ふん〉、を経験したと…
- T : そうですねー。
- I : 思います。
 でそしたらもう大体〈ふん〉安定した社会〈ふん、ふん〉の中で一、あの一、一人並みの〈ふん〉、あの一、生活を〈ふん〉送るためには一〈ふん〉、これぐらいやっておけば〈ふん〉いいっていう〈ふん〉〈ふん〉ので一、
 で、生活に不自由がない。
- T : ないですねー。
- I : ですね〈ふん〉。
 多分そういう環境で育った子供は一〈ええ〉、まあ特にお金にも執着心がなく一〈ふん、ふん〉、あの一、
 普通にやっていたら〈ふん、ふん〉、あの一、なんとなく〈ふん〉、まあ、自分の好きな趣味とか一〈はい〉、そ
 ういうのができれば〈うん〉いいかな…
- T : なるほどね。
- I : っていう風に〈ふん〉、すると上昇志向もあんまり、芽生えて〈ふん〉こないかなーと思いますよ。
- T : ただ、今、世の中見てますと、その一、仕事に、こう、わ、まだ団塊の世代がまあちょうど今、そ、えー
 定年を向かい始めて〈はい〉、まあ一、あと5年くらい〈はい〉、まあ一、まだ、その一、一番多いそうなん
 ですけども一〈はい〉、その若い人の就職が難しい〈はい〉っていうんですよねー。
- I : ええ、そうですねー。
- T : うん、それでこう夢もないし一、あと難しいですから一〈うん〉、自分がもしフリーターになったりだとか
 〈うん〉、その一、どうしてもうまくいかない…
- I : あの一、えーっと、実はこれは今中国にも〈うん〉出始めている問題…
- T : あー、そうですか。
- I : なんですけど〈ふん、ふん〉、あの一、フリーターって〈ええ〉呼ばれているような、あの一、外来語としてあ
 るんですね。
- T : あー、そうですか。
- I : フリーター、でやはりあの一、成熟期に入った日本には〈うん〉もう数年前からある問題で。
- T : そうです〈はい〉ねー。
- I : 中国はこれからあると思うんですけど〈うん、うん〉、フリーターでも、今報道されているようですが〈ふ
 ん〉生活が苦しいとかいう…
- T : はい、そうですねー。
- I : フリーターでも普通に生活できる〈ふん〉っていう、まあ生活がある程度保障されて〈ふん〉いる、状況
 なので一〈ふん〉、あの一、あえて正社員にならなくてもいい、…
- T : ただねー、…
- I : って言うことがありますよね。
- T : ただ、まあ、長い目で見ると、30年、20年過ぎて〈はい〉、まあ、若いとき、30、40なったときに
 フリーターだとどうなるかって〈ええ〉ことがね、彼らを不安〈ええ、ええ、ええ、ええ〉、将来不安ですよ
 ねー。
- I : うん一、不安って部分はある〈ふん、ふん〉んですけども、ある程度社会保障〈ふん〉システム〈ふん〉
 ができていけば一〈ふん、ふん〉、まあ、あの一、飢え死にすることは〈ふん〉ないだろうって〈ええ〉大体
 みんな高を〈ふん〉くくってやってる…
- T : なるほどねー。

K002

- I : nderすよね。
- T : ただねー、今、年金とかも〈はい〉、あの一、非常に〈はい〉破綻しかけるかも〈ええ、ええ、ええ、ええ〉しれないっていう状況なんですねー。
そういうために若い人が今就職してない〈はい〉ってことは一〈ええ〉、政府にとっても国にとっても〈ええ〉非常に負担〈ええ〉になると思うんですけど。
- I : はい、そうですね。
まあ、ふーん、日本では考え方が違うと思うんですけど〈おおー〉、日本ではみんな年金のことすごく悲観的に〈はい〉{笑}に見ているんですね。
- T : そうですよーね。
- I : で、あの一、あの一、中国では〈うん、ええ、ええ〉、まあ一、あの一、年金がもらえる人がいれば一〈うん〉最初からもらえない人もいるんですね。
- T : あ一、そうですか、へえ一。
- I : 例えば中国では、あの都会に住んでいる人は〈ふん〉、年金はもらえるんですけど一〈へえ一〉、農民たちには〈うん〉、そもそも〈うん〉、もともと年金っていうものがないん〈ふーん〉ですね。
あの一、ある会社に勤めていなければ〈ふーん〉、そもそも年金がないって事が〈はい〉あって。
- T : あ一、そうですか。
- I : で、まあ、あの一、じゃあ皆さんがどうやっていけばという一〈うん〉、まあ、自分の力で貯金する〈ほお一、はい〉、と一、子供、に一、養ってもらえる〈ふーん〉って考え方でやってこられている〈ふーん〉と思うんですけど。
だから、あの一、日本で一〈ふん〉、あの一、日本で一年金が破綻、破綻、破綻、って〈ええ〉昔、昔って言うか十年近く…
- T : そうですねー。
- I : 前から言われて〈ええ〉、言われ続けているんですけど〈うん、うん〉、もしそのときになったらまたそれで対策をとればいいかなって…
- T : ふーん、なるほどねー。
- I : いうのがあたしの考え方〈ふん〉なんでけど。
あの一、すごく騒いでいる〈ふん〉んですけども、それで〈ふん〉一今すぐ何か目の前で起こらないと一〈ふん〉、何もやらないっていう…
- T : そうですねー。
- I : のは中国人の考え方なので一。
- T : あ一、そうですか。
- I : 多分、あたしから見れば一〈ふん〉、そのきゆう〈ふん〉、にすぎない〈ふん〉と思ってしまう部分があるんですけど。
- T : まあ、その、目の前に何か起きないとね〈はい〉、あの一進まないと〈ええ〉さっきおっしゃっていましたが、あの一、今、地球的、グローバル的に見ると一〈はい〉、え一温暖化の問題が〈はい〉、ありますね〈はい〉。
それで一、まあ、いろんな国が、ていたん、低炭素社会ですか〈はい〉、それを目指しているんですけども一、やはり中国はある意味経済成長〈はい〉を一、今しているの、え一、その、あまり協力的じゃないという風に言われているんですけども、その点どう思いますか？。
- I : あっ、そうですか？ {笑}。
協力的だと思いますよ。
- T : あっ、そうですか {笑}。
詳しく教えてください。
- I : いや {笑}、わたしはあんまり〈うん〉おえていないんですけど一〈ええ〉、あの一、まあ、まず人口ごそれぐらいある…
- T : はい、そうですねー。
- I : ので一、それは一、例えば一、アメリカとか〈ふん〉日本と一人当たりで見ると一〈ふん〉、アメリカやヨーロッパや日本のほうがたかいでしょう？。
- T : はい、そうですね。
おそれ、すいません。

K002

- I : それで協力的〈ふん、ふん〉でないって言われるとー〈ふん〉〈ふん〉、じゃあ中国の人はどうすればいいんですか？。
- T : そうですねー。
- I : もう生きられないでしょ〈ええ〉。
そういうことになるでしょ。
- T : そうですねー。
- I : でまあ、中国人、の論理〈はい〉からいうとー〈ええ〉、まあ、あなたたちは先に〈ふん〉こういう道を歩んできて〈ふん〉、まあ、ある程度利益みたいな〈ええ〉、富みたいもの〈ええ〉をつかんでからー、私たちが今あなたたちの後〈うん、うん〉、ね、ついて〈うん〉、やっていることに〈うん〉あれこれ口出して〈うん〉言うのはおかしいよ〈うん〉、っていう論理なんですね〈ほおー〉。
ただしー〈うん〉、もちろん、その、温暖化っていう問題も〈うん〉あってー、〈うん、うん〉その、例えば隣の人が悪いことして〈うん〉、じゃあ、悪いことをして何か利益を〈うん〉得た人〈うん〉を見て〈うん〉、悪いことであることがわかっているけど〈うん〉、そういう利益があるから私もとりあえず〈うん〉やるか、ってこととはまた別〈ふーん〉なんですね。
それは追跡しないほうがいいかも知れないですね〈はあー〉。
なので、ま、中国でも〈ふん〉今、色々〈ふん〉やっては〈ふーん〉いると思うんです〈ふん〉けど、ただ、あの、これなかなか難しいんですよ。
- T : そうですねー。
- I : その、今すぐ、じゃあ、全部、こう、ゆを止めるとか、…
- T : それはー、…
- I : そういうことは〈ええ〉できないですね。
- T : そうですねー。
- I : なので〈ふん〉すこしずつはやっているとは思いますが〈ふん、ふん〉、難しいですよ〈ふん〉。
なんか、私が、そ、お、中国に〈ふん〉あれこれ〈ふん〉協力をしてっ〈ふん〉、て求めるよりも〈ふん〉、アメリカに何か〈はい〉、まず何かやってほしいですね。
- T : アメリカは国レベルでは動かないんですけども、市民レベルでは動いているんですね。
- I : あっ、そうですか。
- T : ええ、そういう国なんですけどねー。
- I : なんか、すごく個別なケースになるん〈うん、うん〉ですけど、知っているアメリカ人と〈ええ、ええ〉ちょっとおしゃべりしていて〈はい〉、それでその人は今日本に住んでいるんですけど〈ふーん、ふん、ふん〉、その夏をどうすごして〈ええ、ええ〉いるかって話になってて〈ふん〉、私なんか〈ふん〉なるべくエアコンを使わないように〈はい、ふん、ふん〉一ごぎを買って〈ああー〉{笑}過ごしているんですけど〈はい〉、でその人はあの夜布団をかぶらないと、もう何もかぶらないで〈すー〉寝るなんてあたしはとてもできない〈ああー〉、アメリカで何十年も〈ふん〉、あの、生活してきた習慣〈ふん、ふん〉なので、あの部屋の温度は22度と〈ふーん〉、っていう風に設定して〈ふん〉、やっているの、今でも一年中〈ふん〉、年中あの布団を、あの、かぶって〈ふん、ふん〉寝ている〈ふん〉っていう話をしてたんですね〈ふーん〉。
まあ、そういうことを考えると〈ふん〉、あの、アメリカでは多分〈ふん〉よく聞くのはセントラル、あの、コントロールの〈ええ〉、あのエアコンのほうですね。
- T : ありますね。
- I : なので、まあ〈ふん〉、人がいようといない〈ふん〉とー、その温度は多分ある一定〈ふん〉の、まあ、快適さ〈ふん、ふん〉、を保っているように〈ええ〉してるんですけど〈ふん〉、そこにどれくらいのエネルギーが〈ふん〉費やされているかって…
- T : なるほどね。
- I : 考えたら、やっぱりもうちょっとやってほしいですね。
- T : アメリカもですね、ふーん、ね、はい。
えっとですねえー、つと、今、あの、お仕事なさっていらっしやいますね？。
- I : あっ、はい。
- T : えーと、それでどんなお仕事を？。
- I : あっ、あの一、まあ、ここで中国語を教えたりー、…
- T : あー、そうですか。

K002

- I : あと、ほ、他で日本語を教えたりー、…
- T : あー、そうですか。
- I : 異文化について教えたりして〈ふーん〉いるんですが。
- T : まだ、あのお勉強は続けていらっしゃるんですか？
- I : あっ、はい、今、今、博論を書いているんですけど。
- T : あー、そうですか。
- I : まあ、あの、来年卒業できるように〈ふーん〉したいですが。
- T : 今、どんなことに興味をお持ちなんでしょうか？
- I : あのー、えーっと、研究のほうですか？
- T : んー、でなくても、あのー、特に研究でもかまいませんし、でなくても、あのー、どちらでも。
- I : 研究でない？ {笑}。
- T : 研究でもいいですが {笑}、どちらでもいいですよ。
すいません、はい。
- I : えー、研究はー、会話の方です、はい。
- T : では、研究でないほうで。
- I : えー、研究でないほう {笑}。
えっ、興味、趣味、興味？
- T : 興味でいいですね、はい。
- I : 興味。
- T : そうですねー。
- I : 興味を持っている？
- T : そうですね。
- I : えっ、興味ないですね {笑}。
今、研究の、ことで頭がいっぱいであまり。
- T : あー、そうですか。
- I : 他に…
- T : じゃあ、会話って言うのはどんなこ、研究ですか？
- I : 会話？
- T : はい。
- I : えーっと、あの、グループ〈うん〉の、例えば討論とか〈ふーん、うん、うん〉、今やっている〈うん〉んですけれどもー〈うん〉、その、例えばあのー、私たちの〈うん〉〈うん〉今の会話は、非、対等な会話ですよね。
あのー、一人がインタビューで、一人、が受けるほう〈はい〉ですね。
で、例えばグループ討論に参加している人達〈うん、うん〉に、あのー、日本語母語話者〈うん、うん〉、日本人とー、非母語話者〈うん、うん〉、留学生がいる〈ええ〉。
で、その中で例えば留学生はー、本当は自分がすごく主導権を〈うん〉握って話したい。
けれどもー、握れない〈ふーん〉。
で、その討論での役割がどうももう固定されてる〈ふーん〉ように見える…
- T : わかりました。
- I : っていうのがありますね。
- T : やっ、すいません。
それで大体わかったんですが {笑}、あのー、でですね、その大学〈はい〉院に〈はい〉、その、そういった会話の〈はい〉その構造分析とか〈はい〉なんかしている〈はい〉大家の先生がいらっしゃって〈あっ、はい〉、それで講演会をこうお願いしたい〈ええ、ええ、ええ〉っていうロールプレイを、これからしたい〈あっ、はい、はい〉と思ひまして。
まあ、私があるのー、まあ大家としますね〈はい〉。
あのー、西川…
- I : はい、西川先生ですね。
- T : あのー、大学は、まあ【T】大学〈はい〉の教授〈はい〉で大家〈はい〉としますね。
で、その先生にその、えー、大学の研究会のー〈はい〉一環で〈ええ〉、日曜日にこういった〈はい〉セミ

K002

ナーを開きたいと〈はい〉ということで〈はい〉、あの一、ノックして〈はい〉、あからじめ〈はい〉、あらかじめ、え一、アポイントとっていますので〈はい〉、あの一、お願いをするという場面〈あ一はい〉お願いしたいんですけど、…

I : わかりました。

T : よろしいでしょうか？

I : はい、ではノッ…

T : はい、そうですね。

I : {ノックオン}

T : はい、どうぞ。

I : 失礼しまーす。

T : はい。

I : あの一、西川先生でーいらっしゃいますか？

T : はい、そうです、はい。

I : あの一えーっと、【大学名】大の、と申しませんが、えーと。

T : 【大学名】大の？

I : えっ、ここいいですか？名前。

T : いいです。はい。

I : お、【大学名】大学の【I】と申しますが、…

T : 【I】さんですね。

I : はい。

先日あの一、お電話でー〈はい、ええ〉お話をさせていただいた件で〈はい〉、ちょっと本日お伺わさせていただきましたが〈あ一、はい〉、えーっと、講演の件で〈ええ、ええ〉、えーっと、え、少しお話をしてもよろしいですか？

T : はい、ええ、かまいません、はい。

I : あっ、あの一、来週の日曜日にー〈ふん、ふん〉、えーっと、【大学名】大にいらしてー、あの一…

T : 来週の日曜日ですか？

I : ええ、えっと、そういう…

T : えっと、来週ですと…

I : そういう…

T : ええ一、二十、4ですか、24日ですね。

I : はい、あっ、はい。

T : の午前でしょうか？

午前、午後でしょうか？

I : あっ、あの一先生のご都合のよろしい時間帯で…

T : えっと、午後が空いてるんですねー。

I : あっ、午後の一〈ふん、ふん〉、何時ごろがよろしいですか？

T : ええ、二時ごろ〈ふん〉でよろしいですか？

I : あっ、わかりました〈ふん〉。

ええ一、では二時ごろに一〈ふん〉、えーっと、そうですね、二時ごろに【大学名】大で〈ふん、はい、はい〉講演が始まる〈はい〉って〈ええ、ええ〉という感じで、一時半ごろ〈はい〉大学の〈うん、うん〉校門の…

T : はい、わかりました。

I : 前でお待ちしてって感じでよろしいですか？

T : え一、そしたら【I】さんがそちらの校門のところにいらっしゃるんですね？

I : はい。

T : わかりました。

で、どんなその、テーマでお話したらよろしいですか？

I : ええ、あの一、グループディスカッション〈ふん〉における〈ふん〉、あと役割…

T : 役割ですよ。

I : っていうテーマで〈はい〉お願いできればと思いますが。

K002

- T: 分かりました, はい。
 じゃ, ちょっと, はい, 準備して. はい。
- I: すいません, お忙しいところ。
- T: また細かいことはね, はい, またメールで, うん, あの一, おはな, 打ち合わせしたいと…
- I: すいません。
 よろしくお願いいたしますー。
- T: お願いいたします, はい。
- I: はい, ありがとうございますー。
 では, あの〈はい〉失礼させていただきます。
- T: 失礼いたします。
 えー, それでですねー, その, 同じどう, えー, この研究会の, とても親しい〈はい〉, ね, 仲間で〈はい〉, 私も同じようにー〈はい〉, その, えー, 田中〈はい〉, 田中ですけども〈はい〉, あの田中君で〈はい〉かまいません。
- 【I】さんでいいですね〈はい〉。
 はい, とても親しいんですよね〈はい〉。
 はい, それで心配で, 電話かけてきます〈あつ, はい〉。
 その大家の先生に, あのお願ひしたので〈はい〉。
 で, どうだったか聞きますので〈あつ, はい〉。
 あの一, 電話しますので〈あつ, はい〉お答えください。
 はい, じゃ始めます。
 トゥルトゥルトゥル, あつ【I】さん?
- I: あつ, はーい。
- T: あつ, あの一, 田中だけどー。
- I: あつ, はい, 田中君。
 何?。
- T: たな, あのねー, あの一, さっきー, 電話したんだけど, なんか, 留守電だったんでー。
- I: あつ, ごめんごめん。
- T: ひょっとしたら, あの一, 先生のところ行ってたんじゃない?。
- I: そうそうそうそう, そう。
 お願ひしてきたよー。
- T: あー, すごーい。
 どうだった, どうだったー?。
- I: うーん, あー, でもすごく〈うん〉いい方の一 (ああー), 快くなんか承諾してくれたみたいでー。
- T: わー, すご。
- I: もう来週の日曜日に〈へえー〉いらっしゃる事になって。
- T: えっ, もう来週にいらっしゃるって?〈へえー〉。
 あの先生, あの一, 結構気難しいってきいたんだけど。
- I: えっ, そうなの?。
- T: そんなことなかった?。
- I: いやいやいや, すごくやさしそうな感じで, 話しやすかつ。
- T: あっそうなんだー。前ね, 一年前にー, あの一, 同じ【大学名】大のね, 友達行ったんだけどー, なんか, 断られたって聞いたんだよ。
- I: あつ, じゃあ, あたしが話がうまかつたのかしら {笑}。
- T: **かもねー {笑}。
- I: うん, でも運が良かったかもねー。
- T: うん, そうだね。
 【I】さんがー, とても偉いとおもうからー, ちょっとご馳走するよー。
- I: えっどうして? {笑}
- T: だってさー, なかなか難しいって思ってたからー。
 すごいなー。

K002

- I : あー, うれしいー。
じゃあ, まあ〈うん〉, じゃあ〈うん〉, じゃあ〈うん〉, あの, じゃあ〈うん〉, ほんとにいいのね?。
- T : いいよ, いいよ。
じゃあさ, い, 今一, 6時過ぎてるから, ちょっと7時に, 【大学名】大の校門, 西門だっけ, 東門だっけ?。
- I : うんうん, ああ, ああ, 東門?。
- T : 東門, うん, 東門で待っててくれてる, 待っててくれる?。
- I : 東門で〈うん〉6時に〈そうそう, うん〉。
分かった, 分かった。
- T : 大丈夫?。
- I : じゃあ, じゃあ, あと三十分くらいだよな。
- T : そうそうそう。
- I : うん, 分かった。
了解。
- T : はい。
じゃあ, またねー, うん〈はい〉。
はい, これでロールプレイ終わりまーす。
- I : あっ, はい。
- T : えーっと, あの, えー, これから, あのー, これからお仕事, 続けるんでしょう〈はい〉か?。
こちらで, 今, わたし学校来ているんですけども〈はい〉, こちらの〈はい〉, えー, これからお仕事終わったら何, 何かなさいますか?。
- I : 今日ですか? {笑}。
- T : あっ, はい {笑}。
- I : 今日, 今日はいこれから〈うん〉共同研究の〈うん〉, その, 今日の午後打ち合わせしててー〈はい〉, でー, その予稿集っていのがありまして〈ふーん〉, それを作って〈ふん〉, もう一人の〈ふん〉共同研究のメンバーに送るっていうことを〈はあー〉, あの {笑}, 家に帰ってからやります。
- T : お忙しいですねー。
まあ, あの, いつ頃完成させなきゃいけないんですか, その論文って言うのは?。
- I : あっ, 博論?。
- T : あっ, 博論ですね。
- I : 博論はー, この夏に書いて〈はい〉, 8月いっぱい初稿を〈ふーん〉完成したいなって思っています。
- T : じゃ, がんばってください。
- I : ありがとうございますー。
- T : これでインタビュー終わります。
- I : あっ, はい, ありがとうございます。